

## 第56回 関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会山梨大会参加報告

平成27年11月12日、13日の2日間にわたり本県で山梨大会が開催された。1日目の全体会では、山梨大会研究部長加賀美公人先生から研究主題「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」に迫る「たくましい力」「しなやかな心」のサブテーマも含め基調提案がされ、また、記念講演では、山梨県出身の作家林真理子さんから「私の仕事から」という演題で、山梨で育った高校時代のエピソードも交え、現在の教育に関わるお話を聴き、改めて現在の教育を考える機会をいただいた。

2日目は、14分科会に分かれ、提言、グループ別研究討議が行われた。本分科会では、「PTA及び地域・社会に関する課題」を中心に、東京都より平山尚彦副校長（東京都中央区立築地小学校）が、「PTA及び地域社会との連携」、山梨県より加山大洋（甲州市立塩山中学校）が「PTA活動と連携した学校運営のあり方」を主題として提言したものをもとに、全12グループで、活発な研究協議が行われた。

午前中は、東京都中央区の実践が提言された。「人材活用を考える」をサブテーマに、PTAや地域社会との連携について、地域の商店街の町会を利用しての人材活用の視点から区内の各校の状況を把握し副校長としてのよりよい関わり方の方向性を提言報告した。提言を受け、分科会協議の柱を、①「家庭・地域・行政の連携・協力を深める人材活用の現状」、②「やりがい・関わり合いが見える人材活用のあり方と副校長・教頭のかかわり方」とし、12のグループに分かれ、活発な研究協議と情報交換がされた。提言1のまとめとして、元八田小校長大堀修己先生より「ボランティア・社会貢献の経験も広がり、社会総がかりで子どもたちの育成に取り組むなど、地域・PTA・家庭との連携が大事になること」、「地域・保護者が関わったことで、子どもたちが成長したことがわかること」等、多岐にわたり評価していただいた。

午後は、山梨県甲州市の実践が提言され、「PTA及び地域社会に関する課題」で、塩山中学校の加山が「活動の活性化と教頭のかかわり」をサブテーマとして、甲州市の18校の教頭先生に実施した実態調査から見いだした実情と課題、さらには、各校の実践報告からPTA活動の活性化に向けて教頭として留意するポイントなどを提言報告した。各都県の先生方からも、PTAの組織が任意団体なので参加確認をとっているという衝撃的な事実も紹介され、時代の変化に改めて気づかされた。分科会協議の柱は、①「PTA活動の参加意識を高める組織づくりや運営のあり方」、②「PTA活動の活性化を促す副校長・教頭のかかわり方」とし、午前中同様12グループで協議された。提言2のまとめとして、元日下部小校長雨宮政文先生より、「子育てというそれぞれ独自課題を学校と家庭が50:50（フィフティフィフティ）の関係で行うことが本来のPTAの連携の姿」、「PTA会員の学習会の場を増やすことが活性化につながる」等、山梨の実践を評価した公表と指導助言をいただいた。

最後に、本研究大会に提言の機会をいただき、貴重な経験ができたことに感謝申し上げるとともに、常任助言者の雨宮先生をはじめ甲州市の教頭先生方にご協力いただきありがとうございました。

（文責：研究部長 加山 大洋）